

研究開発評価システムの充実にに向けた検討のとりまとめ（報告書の概要整理図）

第4期科学技術基本計画の基本的方向

課題の達成に向け、研究開発の推進から、その成果の活用に至るまで、科学技術政策とイノベーション政策を一体的、総合的に推進

研究開発評価システムの充実にに向けたポイント（評価の大綱的指針の見直しの視点）

- ① 研究開発の推進からその成果の利用、活用に至るまでを視野に入れて、取り組むべき課題に対応した目標の設定とこれに基づきPDCAサイクルを確立
- ② 取り組むべき課題に的確に対応するために、研究開発政策各階層（政策体系）の相互の関連付けを明確にして、最も施策の実効性が上がる段階でPDCAサイクルを確立

研究開発評価システムの充実にに向けた具体的な方向

研究開発政策体系におけるプログラム評価の導入・拡大

「研究開発課題」や「プロジェクト」よりも上位にある「プログラム・制度」の階層でPDCAを確立

アウトカム指標による目標の明確化とその達成に向けたシステムの設計

「アウトカム」目標を検証可能な内容で設定し、これに基づきPDCAを確立

プロジェクトの関連付けによるプログラム化

現状

上位施策に対する各プロジェクトの位置付けやプロジェクト同士の関連付けが明確にされていない

各プロジェクトの総体としての効果が十分に発揮されていない

今後

関係するプロジェクトの関連付けを明確化し、プロジェクトの総体について計画的に進行管理を行う形で、PDCAを確立

アウトカム指標による目標の設定

現状

アウトカム目標については、その達成時期を含めてあいまいな形でプロジェクトや研究資金制度が実施されている

今後

「アウトカム」目標とその達成時期を検証可能な内容で設定
その際、短期、中期、長期などの段階で設定することが有効

アウトカム目標の達成に向けた取組み

① 事前評価の強化

アウトカム目標の設定とそれを達成するためのシナリオや工程表の妥当性を判断するために、事前評価の内容を充実

② 工程表の明確化と行政施策等との連携強化

工程表を明確化する中で、関連行政施策についても、補助的な装置として、可能な限りプログラムの中に位置付け
評価の際には、これら行政施策の妥当性・有効性についても検証

③ 追跡評価の強化と追跡調査の実施

追跡評価を積極的に位置付けて実施対象を拡大
全てのプロジェクト（研究開発課題）について追跡調査を実施

研究資金制度のプログラム化

現状

終期が設定されていない、制度及び領域等のサブ単位での時間軸に沿った検証可能な目標が示されていない

評価結果を踏まえた機動的・能動的な制度の見直しが行われていない

今後

検証可能な目標を一定の時間軸の中で設定し、それに基づく評価結果を能動的・機動的に制度の見直しに反映させていくことによりPDCAを確立

プログラム評価の導入・拡大に向けた関連の取組み

- ① プログラム評価における評価対象の明確化（推進主体による資金配分やマネージメント等が評価の重要な要素）
- ② 評価の体制・方法等の見直し（独立性のある評価担当部署が、統一性のある評価方法の下で実施する体制を構築）
- ③ 評価業務に携わる人材の育成（評価に必要な知識・能力を有する人材を育成し、評価担当部署に配置）